

日本ペイントホールディングス株式会社
第 199 回 定時株主総会 質疑応答要旨
(2024 年 3 月 27 日)

Q1	炭素などの環境対応の状況について教えてほしい。
A1	当社は、TCFD（気候関連財務情報開示タスクフォース）への賛同を表明しており、自動車用塗料などの分野で積極的に脱炭素の取り組みを行っています。環境問題に対する責務を充足することは、「株主価値最大化（MSV）」の前提条件の一つと考えています。塗料業界そのものからの温室効果ガスの排出量は比較的多くはないと認識していますが、サプライチェーン全体における排出量については議論が必要であり、継続して対応していきます。

Q2	環境対応、研究開発体制について教えて欲しい。
A2	環境問題の解決や顧客ニーズに対するイノベーション対応が、最終的には当社グループの売上収益・利益につながると考えています。今後は、そうした顧客ニーズがさらに強くなると考えており、研究開発体制の強化を積極的に行っています。 当社グループにおいては、海外は建築用塗料が主であり、ローカルの強みを生かして各地域の顧客ニーズに合う製品を地産地消で供給する必要があります。一方、グローバルで顧客ニーズが共通することが多い自動車用塗料の研究開発については、CTO（Chief Technology Officer）を中心に横ぐしで対応しており、顧客ニーズを取り入れて各地域で開発した技術・製品の共有・活用を行っています。

Q3	取締役会構成の考え方や、日本セグメントからの取締役登用の可能性について教えて欲しい。
A3	当社の取締役会の役割は、約 1 兆 4,000 億円の売上収益規模を持つ当社グループをグローバルにモニターすることであり、招集ご通知に記載のスキルマトリックスに示すように、当社の取締役会は国籍・性別・経歴を含めた多様性を持つ取締役で構成されています。 一方、日本セグメントのパートナー会社の社長はいずれも当社グループ出身者であり、各事業分野で結果を出しています。MSV に資することを企図して指名委員会が検討した結果、現在の取締役会構成になっているとご理解ください。

Q4	日本の生産について教えて欲しい。
A4	日本においては、住宅の内装は塗装ではなく壁紙が中心であり、人口も増えない状況であるため、生産量が飛躍的に増加することはないと想定しています。し

かし、顧客ニーズを捉えた付加価値の高い製品などによる生産量増を目指し、各事業において販売数量を伸ばすことで、市場シェアを上げることを心掛けています。
--

以 上